

第 68 回講演会<2022 年 10 月 25 日開催>

## 環境問題における真の持続可能性：多様な森林環境問題

加藤 剛（執筆＝高地 薫）

■ 講演者……加藤 剛

（住友林業株式会社 資源環境事業本部 副本部長／脱炭素事業企画室 室長）

■ 司 会……高地 薫

（本学アジア言語学科准教授）

■ 共 催……本学キャリア教育センター

講演要旨：

コロナ禍も多少は落ち着いた 2022 年 10 月、住友林業株式会社より加藤剛氏を招き、対面をふくめたハイフレックス方式で、この数十年人類の懸念となってきた、そして 2015 年に国連で SDGs（持続可能な開発目標）が採択されてから益々世界的な関心と議論の的となってきた環境問題について、企業の実践を含めて講義していただいた。加藤氏は、京都大学大学院在学中より、インドネシア、ジャンビ州における熱帯雨林の調査研究をし、JICA 専門家を経て住友林業に就職した後も、西カリマンタンの熱帯雨林を中心とした環境保護プロジェクトに関与してきた。

講演は、GRACE 衛星によって把握された、地球上の陸地に貯えられている水量の分布図の提示から始まった。この 20 年に陸地の地下水量が激減しているという危機的状況が示された。いわゆる環境問題が、単なる温暖化・気候変動に留まらない環境の変化に関わるものなのである。

環境問題へのアプローチとして、自然を回復し、適切に管理することで人間にとって不可欠な恩恵やサービスが提供されるはずであるという NbS（Natural-based Solution）が推進

されてきたが、近年は行き詰まりを見せている。これに対して、提案されているのが、“Natural Capital（自然資本）”という概念である。すなわち、自然の持つ生物多様性、水源涵養等の機能だけではなく、地域住民の文化や社会も含めた総合的なアプローチだ。これは 1980 年代に誕生した概念だが、当時はこれを全体的に評価する技術がなかった。衛星やドローンなどの新技術によってアセスメントが可能になった現在、再び注目を浴びている。

このような考え方を基礎として、住友林業が取り組む西カリマンタンにおける熱帯泥炭地での森林管理が取り上げられた。この事業には以下の基本方針があった。(1) 熱帯の原生林・泥炭地は開発しない；(2) 経済的側面と環境的側面を調和させる；(3) 私企業として持続性を維持することで「利益」を得なければならない；(4) シンプル、低コストで維持が容易な技術を利用する。

(1) に関してフロアから、例えば炭鉱開発による森林破壊と泥炭地におけるそれは大きく違うものなのか質問が出た。これについて泥炭地は他の土壌と違い、一度破壊されれば元の状態に戻すことは不可能であり、人の手の入っていない泥炭地と森林にその不可逆的变化を起こさせてはならないと指摘された。また、(3) については、現在も多くの企業が SDGs の目標とするところを、単なる CSR（企業の社会的責任）と勘違いしており、それでは真の持続性が担保されないことが強調された。

西カリマンタンのサイトは、インドネシア政府によって定められ、割当てられた一つの保護林と、二つの事業者（住友林業との合弁

会社)による管理林から成っている。管理林では、泥炭地に蓄えられている地中の水を単に排出するのではなく、管理することで、可能な限り自然を破壊せず利用することを可能にしている。また、現地に生息するテングザルの移動ルートを確保するなど、生物多様性の保護も視野に入れている。

こうした管理を可能としているのは、地上に設置されたセンサーと、IHI との提携などで可能になった、様々なセンサーを搭載したドローンや衛星の利用である。これらにより、森林火災、植生、炭素排出、蒸発散量、地盤沈下、野生動物、樹木の成長、違法伐採などの広範で総合的なモニタリングが可能となった。このような統合的な水資源の管理システムを活用した植林により、自然を保護しつつ、企業

として十分な利益が出ることを示してきた。

本講演は、人類が現在直面している環境問題について、その複雑さ、最新の技術を用いたアプローチなど、学生だけではなく報告者自身にとっても非常に刺激的であり、示唆を多く含んだものだった。自然環境を維持・回復することから、企業として利潤を上げることによってこそ、真の持続性が担保されるという指摘、そして実践を通してそれを提示してきた事例の紹介は、単なるスローガンと随ってしまったSDGsを再考する基礎となるだろう。

また今回の講演では、西カリマンタンの熱帯泥炭地の事例が中心となったが、いずれかの機会に、環境問題をめぐる国際政治についても、加藤氏からお話をうかがう機会を作りたいと考えている。

SUSTAINABLE AND RESPONSIBLE  
MANAGEMENT OF TROPICAL  
PEATLAND THROUGH THE  
INTEGRATED WATER MANAGEMENT  
SYSTEM

TSUYOSHI KATO  
SUMITOMO FORESTRY Co., LTD.  
SATURDAY, 25<sup>TH</sup> OCTOBER, 2022

Happiness Grows from Trees  
SUMITOMO FORESTRY

wsl MI KMF

Kaoru Kuchi (KUIS)

2022-10-25 13:12:25

ハイフレックス方式で開催された講演会の様子  
(中央：講師の加藤剛氏、右：司会の高地先生)